

語で始まるところから、そのように呼ばれる。儀式そのものは《入祭唱↓憐れみの賛歌↓昇階唱↓詠唱↓読唱↓奉納唱↓感謝の賛歌↓平和の賛歌↓聖体拝領唱》の順に行なわれ、楽曲としては多くの場合この中の「憐れみの賛歌」「感謝の賛歌」「平和の賛歌」が中心になる。

同じ「レクイエム」という名がついていても、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」、ヒンデミットの「レクイエム」、ブリテンの「戦争レクイエム」などは教会での典礼とは関係のない、コンサート専用の作品である。

スターバト・マートル（・ドロローザ）というのもよく音楽の題材として取り上げられるが、これは「悲しみの御母はたたずむ」という意味の、悲しめる聖母に対する祈りの作品である。

年末年始

外国で暮らす日本人、特に家族と離れて単身で暮らす者にとってクリスマスは大変つらい時期となる。

十二月二十四日のクリスマス・イヴ、そして二十五日、二十六日は一年の中で最も大切な、家族で祝う祝日である。店舗はすべて休みとなり、レストランも閉めてしまう所が少なくない。アパートの窓から近所の家々と、その暖かそうな部屋の中に見えるクリスマスツリーなどを眺めていると、外国生活の孤独感がひしひしと身にしみてホームシックにもかかりやすくなる。

運良く友人の家でのパーティーに招待され、クリスマスプレゼントのひとつも小脇に抱えて出かけても、そこでは友人の親兄弟や親戚など見知らぬ人ばかり。クライマックスになってプレゼント交換が始まって自分は何ももらえず（クリスマスプレゼントは普通何日も前からクリスマスツリーと共に贈り相手の名前をつけて飾られている）、結局とぼとぼと寒い中を帰る羽目になりかねない。

考えてみれば同様の事は日本にも。日本に暮らす外国人にとっては正月が最も寂しい時なのである。

ヨーロッパにおける新年のお祝いは、逆に比較的あっさりしている。年越しの直前はそこらじゅうで爆竹が鳴り響き、新年を祝って酒をくみ交わす。一説によると、年の変わる瞬間には誰とキスをして構わない（あるいはされても文句を言えない）らしい。新年の休日も一日のみで、二日から普通の生活が始まる。クリスマスには家族で家の中にこもっていたのに対し、年末年始には外出したり気分も解放的で、それに合わせて「毎年恒例のコンサート」も催される。

日本の場合は何と言っても十二月に行われるベートーヴェンの第九交響曲のコンサートがそれに当るだろう。

一八二四年に完成されたベートーヴェン最後の交響曲は、その年の五月七日、ウィーンの今はなきケルントナートーア劇場において作曲者自身の指揮によって初演された。当時すでにほぼ全聾の状態にあったベートーヴェンは、指揮をし終わっても茫然と聴衆に背を向けて立ちつくすのみだったが、アルト歌手に教えられて振り向き、初めて聴衆の熱狂ぶりを知り得た、という。

日本では大正十三年十二月六日（一九二四年）、ウィーンでの初演から百年目に東京音楽学校（現在の東京芸術大学）にて初演された。その後昭和二年五月三日、ベートーヴェン没後百年祭において、現在のNHK交響楽団の前身である新交響楽団によって行われた演奏が、公開の場では最初のものである。

昭和八年には初めてラジオで放送されるようになったが、当時はまだ録音技術も充分ではなく、こうしたコンサートの放送は全て生中継だった。毎年大晦日にNHKラジオで第九を生放送したのを皮切りとして、現在の盛況に至っている模様である。ちなみに一九八六年十二月には東京・関東で五十七回、京阪神で三十

回、その他の都市を合わせるとゆうに百回を越える第九の演奏が、プロ・アマチュアを問わぬ各地のオーケストラによって行なわれた。

ウィーンでもコンツェルトハウスで第九を楽しめるが、それにも増してのクライマックスは十二月三十一日に国立歌劇場およびフォルクスオパーにて催されるヨハン・シュトラウス「こうもり」の公演と、一月一日、ムジークフェライン金色の大ホールでのウィーンフィルによるニューイヤークンサートだろう。このニューイヤークンサートは衛生中継によって全世界に向けて放映されており、もちろん日本でも見る事ができる。

この国立歌劇場、フォルクスオパー、ムジークフェライン及びコンツェルトハウスでの催し物はいずれも十二月三十一日、一月一日と二回同じものが繰り返されるが、観光客も多く、切符の入手は早めに手配しないと難しい。特に一日のニューイヤークンサートのチケットを手に入れるのは、現地に住んでいてもまず無理、と思ったほうが早い。

多少趣向の変わったところでは、十二月二十四日の深夜十二時から教会で行なわれるクリスマス・ミサに行ってみるのも、ヨーロッパの伝統に触れる良い機会かも知れない。ただし聖シュテファン大寺院などは毎年大変な人出となるので、それなりの覚悟が必要である。

飲めや踊れや

一八一四年から一五年にかけて、ナポレオン戦争後のヨーロッパの国際秩序再建を目的とした国際会議がウィーンで開催された。列国の利害が複雑にからみあって会議そのものは一向に進展しなかったにもかかわ